

## ■ 熊本大学デジタルアーカイブオンラインシンポジウム 「ひのくに災史録」に期待すること

熊本大学熊本創生推進機構 田中尚人

### 1. はじめに

熊本大学くまもと水循環・減災研究教育センターデジタルアーカイブ室<sup>1)</sup>では、2016(平成28)年4月に二度にわたって震度7の地震に襲われた熊本地震を契機として構築された災害デジタルアーカイブ「ひのくに災史録」<sup>2)</sup>を2020年9月に公開した。これを記念し「震災を伝え学び、次に備える」を合言葉に、以下のシンポジウムを開催した。

主題：熊本大学デジタルアーカイブオンラインシンポジウム「ひのくに災史録」に期待すること

日時：2020年11月21日(土) 10:00~12:00

手法：オンライン (zoom ミーティング)

主催：熊本大学くまもと水循環・減災研究教育センター デジタルアーカイブ室

シンポジウムは2部構成とし、第1部は災害アーカイブに関する2つの講演、第2部は災害アーカイブの活用に関するパネルディスカッションを行った。

### 2. 講演

第1部では、災害アーカイブの活用に関する二つの講演を行った。

#### 2-1 講演1

主題：震災の記憶をどう受け継ぐか ～2014年長野県神城断層地震災害アーカイブの取り組み～

演者：廣内大輔(信州大学教育学部 教授)

信州大学では2014年に発生した長野県神城断層地震の経験や教訓を遺すため、震災アーカイブ(図1参照)を作成し、防災教育や震災ツーリズムに活用している。今後は、主に市民によって構成される「震災アーカイブサポーターズ」に震災アーカイブの管理・運営を移行し、継続して運用されていくことを期待している。



図1 震災アーカイブについての説明

#### 2-2 講演2

主題：3つの「つなぐ」をめざして～熊本大学デジタルアーカイブ「ひのくに災史録」の構築～

演者：竹内裕希子(熊本大学デジタルアーカイブ室長・熊本大学先端科学研究部 准教授)

熊本大学デジタルアーカイブ「ひのくに災史録」は単に災害記録を収集するだけでなく、災害時や復興過程における経験や教訓なども記録・整理し、活用することを目指している。これを Team of Education and Research According Digital Archive (略称：TERADA) が、①データと人をつなぐ、②できたことできなかったことをつなぐ、③現場と教育をつなぐ、という3つの「つなぐ」を活動方針(図2参照)として活動している。

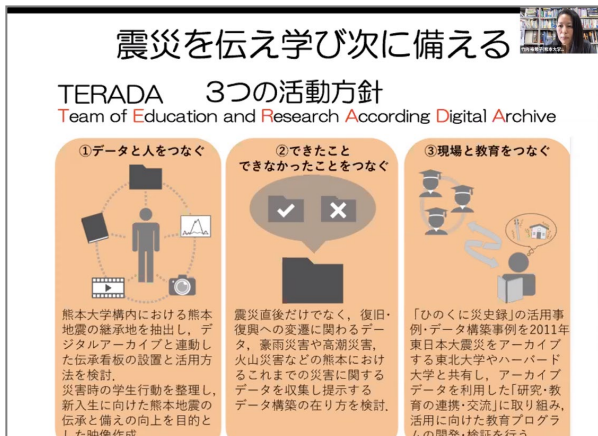


図2 TERADAの活動方針

### 3. パネルディスカッション

第2部では、「デジタルアーカイブ構築工夫と活用の課題」と題して災害アーカイブの活用に関してパネルディスカッションを行った。

#### 3-1 登壇者・司会進行

○登壇者

岩崎進之介（熊本県知事公室参事）

本間喜子（信州大学助教）

山尾敏孝（熊本大学名誉教授）

熊本大学学生（古賀，水上，小溝，三浦）

○司会進行

田中尚人（熊本大学熊本創生推進機構准教授）

#### 3-2 ディスカッション

熊本大学名誉教授の山尾敏孝先生からは、初代熊本大学デジタルアーカイブ室長として、熊本県との協働や、東北大、東大との協働の実践、立ち上げの努力について情報提供があった。

熊本県知事公室参事岩崎進之介様からは、熊本県が運営する「熊本地震デジタルアーカイブ」および「熊本地震震災ミュージアム～記憶の回廊～」の概要・取組について情報提供があった。

熊本大学の学生たち、大学院生の古賀君からは、地元の方々の記憶や経験を伝えることの難しさややりがい、学部生の小溝，三浦，水上君たちからは、「ひのくに災史録」のコンテンツの一つである「災

害カレンダー」を作成する過程で、「誰に、何を伝えるのかルールや基準を考えることが難しかったけれど、楽しかった」とコメントがあった。

信州大学にて廣内先生らと一緒に活動する助教の本間喜子先生からは、「2014年長野県神城断層地震震災アーカイブ」の看板設置と「スノーピークランドステーション白馬」のサイクリングによるコラボレーションについて紹介された。実際に地域の方々とアーカイブを活用する際の苦勞、「家族を守る」という一見当たり前のインタビューの題材や、きっかけづくり、民間会社とのコラボレーションなど、様々な知見をご教授頂いた。

オンラインのため、遠くはオーストラリアからの参加者もあり、「誰のために、誰が、何を、どのように伝えるのか」これからも、私たちは考え続けていく必要がある、ということを確認した。

また、今後も熊本県や基礎自治体との協働や、民間、地域住民の方々との協働などについても、真摯に取り組んでいく必要があるという示唆が得られた。コロナ禍の状況でも、皆様と対話できた（図3参照）ことに感謝申し上げます。

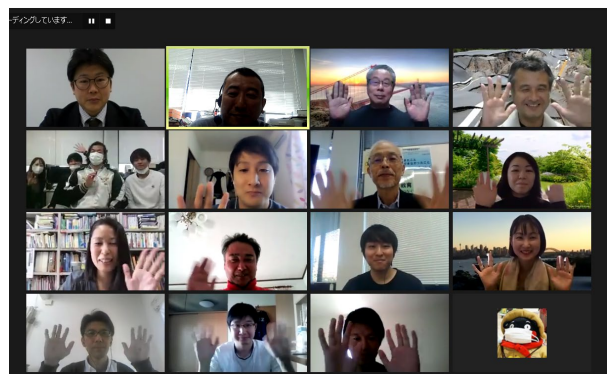


図3 オンラインシンポジウムの風景

参考文献

1) 熊本大学くまもと水循環・減災研究教育センター デジタルアーカイブ室

[https://cwmd.kumamoto-u.ac.jp/digital\\_archives\\_laboratory/](https://cwmd.kumamoto-u.ac.jp/digital_archives_laboratory/)

2) ひのくに災史録

<https://cwmd.kumamoto-u.ac.jp/terada/>

(2021年2月入稿)